

平成 24 年度第 2 回博物館懇談会議事録

日時：平成 24 年 11 月 14 日（水）17 時～18 時 45 分

場所：野田市郷土博物館展示室、野田市市民会館 雪月桃の間

出席者：懇談会委員・生田武士、沼野秀樹、米川幸克。郷土博物館長・関根一男、同学芸員田尻美和子、柏女弘道、佐藤正三郎、大貫洋介（書記）。野田文化広場事務局長・金山喜昭（アドバイザー）。

1. 特別展「野田と災害」

田尻学芸員より博物館展示室で特別展の解説を行った（議事録省略）。その後市民会館雪月桃の間に会場を移し、下記の説明と意見交換を行った。

- ・当館で災害をテーマとした展示は今回が初めてである。
- ・展示初日のオープニング・レセプションでは来賓挨拶の後、学芸員による展示解説や非常食の試食を行った。
- ・関連事業として寺子屋講座、公開消防訓練・起震車体験、関連講演などを実施した。
- ・今後も東日本大震災の被災地宮城県石巻市を取材したドキュメンタリー映画のチャリティ上映会や市長を招いた防災ミーティングを実施する予定である。
- ・読売、毎日、朝日新聞などに紹介記事が掲載された。

●特別展に関する意見交換

委員：阪神・淡路大震災と東日本大震災以降、市民の防災意識は高まっているのではないかと。

田尻：大規模災害はその大半が広域に及ぶものであるが、今回の展示範囲は野田市内に絞った。例えば、キャサリン台風は東京や埼玉に比べれば野田の被害は軽微であるとされるが、浸水を示す写真や資料は存在する。この点は無視できないと考えて取り上げることとした。

関根：今回の特別展で一番苦労した点は。

田尻：紹介する内容の根拠が明確であること。何の基準によって、どの資料やデータを用いるのかに苦心した。その確認作業に最も時間を割いた。

田尻：一般来館者の反応としては、「初めて知った」、「来てよかった」、「他の人にも知らせたい」、「防災意識が高まった」という意見が多く寄せられている。

柏女：展示室に野田市で刊行した洪水ハザードマップや防災ハンドブックを置いた。これらは市内全戸配布されているが、展示を見て改めて持ち帰る人が多い。

田尻：起震車体験には 200 名以上の参加があったが、一方で、試乗をためらった人もいた。その理由の多くは「怖いから」であった。災害のようなテーマでは、危機から目をそらしてしまいがちな人にどのように意識を向けてもらうかが課題であると感じた。一方、子どもたちは強い関心を示していた。

委員：図録がよくできていた。消防団に所属していた時のことを思い出した。野田は昔から水害が多く、消防団は水防団を兼ねていた。川に近い農家には水害対策の船を備えている家も多い。野田の人は水害に強い関心があるのでは。

委員：展示は火災や消防が充実しているが、チラシから消防を扱っていることが分かりにくかったと思う。地震が強調されている感がある。

田尻：チラシ作成段階で展示物の全容が決まっていなかったことが起きる。今後の課題である。

委員：チラシは小学生には人気があった。学校ではチラシがクラスに 1 部ずつ配布され、背面黒板や掲示板上に掲示されている。

田尻：災害という一見暗いテーマのため、逆に明るい色づかいにしたのはよかったと思う。

金山：行政が立てた被害予想は積極的に公開すべきである。

委員：今、過去の様々な災害と同規模の災害が起きた場合、具体的にどの範囲にどの程度の被害が出るのかがすぐに分かる展示だと、より多くの人に関心を示すのでは。現在の写真や地図を用いて対比させると面白い。

田尻：国の機関から提供を受けた画像データが小さく、展示を断念したものもある。但し図録には掲載した。

委員：子どもと水害の話をする、自分に身近な場所の被害予想については皆関心が高い。水害について、子どもにもわかりやすく示すことができるデータ、展示があると子どもたちに関心を示してもらえるのでは。学校で用いる教材も今の風景と昔の風景を同じ場所で対比させるなどの工夫をしている。今回の図録は小学生にはやや難しい内容であるが、興味のある子が図録を読んでいる光景を目にしたこともある。

田尻：図録後半の 3 章の部分は子どもを意識した内容にした。当初はその部分だけ分冊にする案もあった。

金山：先生が展示や図録の内容を咀嚼したうえで、総合学習等のテーマに用いることも可能ではないか。

委員：図録は現在各学校に 2 冊ずつ配布しているが、学習等で活用するには冊数が少ない。各学年に 1 冊ずつあれば有効に活用できるのでは。

関根：本日欠席の委員 1 名より、事前に展示をご覧いただいた上で、次のようなご意見をいただいているのでここで紹介したい。質問への対応のために学芸員が展示室に常駐したほうがよい、災害展については範囲をもう少し絞ったほうがよい、ビデオを流しているディスプレイのサイズが小さい、展示に現在と過去の比較を用いるべき。さらに、博物館全体の役割（定義づけ）や、関宿地区の資料をもっと扱いとよい、というご意見をいただいた。

委員：防災対策、意識は地域ごとに異なる。災害に対するイメージも異なるのでは。

田尻：災害展の範囲については、広くしても狭くしても必ず異論が出たろう。今回の趣旨「今、私たちにできることを考える」にあわせて今回は広く取り扱った。

委員：展示期間はどのように決定しているのか。

田尻：およそ3ヶ月ごとに1回展示替えをし、年4回展示がある。特別展示室と常設展示室が隔離されていない当館では、1階は常に何らかの特別展や企画展をしている必要がある。

金山：直営時代は特別展を年1回行う程度で、特別展がないときは市民がほとんど足を運ばなかった。

田尻：最近、来館者から「次の展示は何か？」という質問を多くいただくようになった。展示内容を問わず、野田市郷土博物館の事業そのものに関心を寄せていただけているようで、ありがたく思っている。

2. 利用者の意見の反映について

第1回懇談会で委員より質問のあった利用者の意見の反映について、柏女学芸員より説明を行った。

- ・利用者の意見は展示室でのアンケート、インタビュー調査などで聞き取るようにしている。
- ・特別展や企画展では12問のアンケート調査を実施している。どの展覧会でも質問項目は基本的に同じにして比較できるようにしている。
- ・属性調査では職業について特に詳しく調査しているが、分析は未着手である。
- ・展示内容や雰囲気の評価してもらい、可能なものはすぐに改善に取り組む等、役立てている。
- ・展示によっては学芸員が詳細な分析を行い、紀要に掲載する場合もある。
- ・また、来館者へのインタビュー調査を年10回実施している。市民会館の部屋利用者も含めて敷地に出入りする人すべてを対象とした対面式の調査。
- ・博物館ボランティアや野田ガイドの会にはモニター的な役割を担ってもらっている面もある。展示解説会の中で意見を述べてもらい、出された意見をもとに展示を調整することもある。
- ・調査する中で浮かび上がってくる顕著な意見への対応例として、市民会館貸部屋の貸出時間区分の変更がある。以前は午前・午後・夜間であった貸し部屋利用時間を1時間毎に改めた。その結果部屋の利用率は大幅に向上した。
- ・展示室が無人で寂しいという意見を踏まえ、平成21年度より博物館ボランティアを導入し、受付や簡単な解説をお願いしている。
- ・当館の場所が分かりづらいことによる公道へのアクセス看板設置など、当館で扱いきれないものについては、市に報告し対応を検討してもらっている。
- ・アンケート結果は年報紀要や博物館評価（自己評価）に反映しホームページなどで公開している。

●利用者の意見の反映に関する意見交換

委員：アンケートが記述式ではなく選択式になっている点、「普通」という選択項目がない

点はとても良いと思う。以前、普通とすごく良い、すごく悪い、の両極端を項目から外したアンケートをとった経験がある。

委員：評価の部分を棒線に目盛りつきのものにして、自分の思ったポイントのあたりに印をつけて採点してもらう方式のアンケートをとった経験がある。大多数を占める中間層からより有益なデータを取ることができた。

委員：展覧会開催情報の入手場所を詳細に検討し、今後の広報に活かすとよい。

田尻：開催情報の入手場所についてのデータを広報戦略に活かすという発想はなかったの
で参考にしたい。但し、情報の入手ルートは展示内容によって大きく異なるのでうまく活
かせるかどうか。例えば公募展は友人知人の紹介、特別展は新聞等のメディアによる部分
が大きい。

委員：ちなみに、今の災害展のアンケート集計はどのような状況か。

田尻：集計は展示がすべて終わってからやっているのできちんと把握していない。しかし
それでは途中修正ができない。今の指摘は非常に重要な点と感じる。今後は展示開始後し
ばらく経った時に一度集計してみるようにしたい。

委員：質問内容は十分であるが、質問の文言はポイントを絞るとよい。字数が増えてしま
うのは選択式の弱点であるが、字が多すぎるアンケートは答えてもらえない。一方、記述
式は回答率がさらに下がる傾向にある。

田尻：現在、アンケートは現状を知る程度にしか活かせていない部分もある。こうしたデ
ータを蓄積することで展示の重点を絞る事ができる。

3. その他

●次回博物館懇談会の日程

- ・主な議題は来年度の計画について。
- ・2月13日(水)を第一候補日とする。第二候補は2月20日(水)。時間は17時-18時半。

追記

欠席した委員との日程調整を行い、2月13日(水)17時-18時半に開催することとなった。